

入選

家庭も水源と知って

杉戸町立杉戸中学校 三年 加藤 七菜

私は、小学校五年生の時に、利根導水総合事業所が管理している「利根大堰」に社会科見学で訪れました。利根大堰は、昨年の台風十九号で大活躍した施設です。川幅の大きさに驚き、実物を見て近くに行き「本物の施設」を実感し、水はどこから来るのかを勉強しました。みなさんも大堰や巨大ダムを見学されたことがあるでしょうか。ぜひ訪れてみてください。水とは何か、私たちにどれだけ必要なものかを考える時間が出来ると思っています。

さて、自然の大量の水を見たのですが、自宅に戻りご飯を食べて普通の生活を過ごしております。私は、中学三年生になりました。「水の週間」があることを知り、改めて水について考える機会ができました。水が大事だということ、雨が降らなかつたりで川の水が足りなくなつたらどうなるのか、また家庭の水はいついまでも自然に供給されているのかを調べることにしました。自然と言ったのも、私は小さい時から水に困った生活を送っていません。東日本大震災の時は年中児で、計画停電がありました。生活水は地域一丸となって節水していましたので、困るほどではなかつたと両親からも聞いています。私は幼くて記憶がありません。

しかし、水が無くなれば、節水や供給休止などを知ることがあることを知りました。お住まいの地域により季節柄の雨量などで定期的な供給がままならぬ地域もあることを知りました。自然に任せず、自らの地域の用水を節約し大事に使う大切さも学びました。そして、何故だろうと調べると本当に大切な事に気づかされました。本当に驚きましたが、一番身近な家庭の水が水源だったということ。それは、朝起きてから家族で使う水です。朝起きてから、トイレにも行き、顔を洗って身支度をして、朝食をとります。その間にも水は使います。私が登校すると、母は掃除に洗濯に水を使います。花に水をあげたり、

夜には夕飯づくりにお風呂の準備、後片付けなど。週末には、父が洗車をします。それらの使用した大量の水ですが、普通の生活で使うには必要な水なのです。それから、ちいさな無駄遣いを見つけてことができます。皆さんの家庭でも試してみてください。

節約節水は面倒くさいことでしょうか。東京オリンピックは来年に延期となりましたがもうすぐです。悠長なことは言ってられません。埼玉県でも複数の競技が開催されます。社会の為に、わたしの様な中学生が出来ることがありました。節水です。水道の水を使うときの水を細くして使用します。歯を磨くときに使う水を流したままにはしません。毎回止めます。お花の水やりは雨水をためたものを使用します。お茶碗を洗うお手伝いの時の水の量にも気をつけたいです。私にもできることがあると、母に話したところ、母にも思いあたる節があつたようです。それは毎日使う食器洗い乾燥機でした。私ひとりですべて考えていた節水が家族を巻き込む形に変化しました。食器洗い乾燥機のコースはスピードコースなど水を使用する総量が節水だということがわかりました。節水をテーマにすると、水源を考えることにつながると思いませんでした。すごく社会の役に立っている気持ちになり、清々しい心に気持ちが変わっているのに気が付きました。これからも水を大切にしていこうと思えます。学校でも友達や先生方にも楽しく節水できる方法があるか、一緒に話し合う機会を作っていきたいです。今は水があるから、面倒くさいと言う人もいるかもしれませんが、小さなことから始めていきたいと思えます。水を使おうとした時に蛇口をひねる私の手が、水源なのかもしれません。